

令和8年2月定例会一般質問発言通告表

| 発言 順序 | 3 議席 番号 | 5 | 氏名 | 赤 池 弘 源 議員 | 1 / 1 |
|----------|--|---|---|------------|----------------------------------|
| 発 言 項 目 | | | 要 旨 | | 答 弁 者 |
| 1 | 子育てを、ひとりに しないまちへ ～地域共助と子育て支 援の新しいかたち～ | | <p>核家族化や地域コミュニティの希薄化により、子育て家庭の孤立が深刻化している。本市が推進する「富士宮市子育て応援ヘルパー等派遣事業」の拡充は、孤立を防ぐセーフティネットとして極めて重要であり、大きな前進と評価する。こうした中で、行政の支援（公助）を入り口に、将来的に地域全体で自然に支え合う文化（共助）へとつなげていく「安心の連鎖」を構築することこそが、本市の少子化対策の根幹であると考える。現状の課題と今後の展望について以下伺う。</p> <p>(1) 本事業の過去5年間における利用者数、利用延べ時間、利用内容（家事・育児援助の各項目）の推移について伺う。</p> <p>(2) 特に近年、調理等の家事援助ニーズが数年で数倍に急増している背景を、市当局はどのように分析しているか。また、ニーズの増加に対し、現在の供給体制（キャパシティ）の現状と、今後の担い手確保に向けた見通しを伺う。</p> <p>(3) 利用を妨げる「心理的ハードル」の解消と環境整備について、「頼る不安」や周知不足という「見えない壁」を打破し、誰もが安心して制度を利用できる環境を整えるための改善策を伺う。</p> <p>(4) 地域共助の可視化と「子育てサポーター」の公的認証について、専門職不足を補い、地域に「顔の見える信頼関係」を再生するため、市が研修・認定した市民を「子育てサポーター（仮称）」として可視化（ワッペン等の着用）する仕組みを提案する。行政支援を「入り口」として地域共助を「日常」へとつなげる仕組みづくりについて、市の考えを伺う。</p> | | 市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長 |
| 2 | 「食のウェルビーイング」の実現と「しおサポ」事業の推進について | | <p>第6次富士宮市総合計画の始動にあたり、将来都市像「富士山を心に人の和と豊かな自然が織りなす幸せを感じる富士宮」の実現には、市民一人ひとりが心身ともに健やかであることが不可欠である。私は、本市の豊かな農産物や、地域に眠る歴史ある資源、そして家庭で育まれてきた食の知恵こそが、健康寿命を延ばし、地域を活気づける「宝」であると考えている。この「豊かな食」を単なる消費で終わらせず、減塩対策という「健康」の視点を市全体で「食の幸せ（ウェルビーイング）」を形にするために伺う。</p> <p>(1) 保健福祉部における「健康減塩サポート店（しおサポ）」事業の現状と課題について伺う。本市で始動した「しおサポ」事業の登録状況と、市民・店舗の手応えをどのように把握しているか。また、普及拡大に向けた現時点での課題について当局の分析を問う。</p> <p>(2) 市は募集にあたり「メニュー開発への協力」を掲げているが、市の管理栄養士・栄養士がどのように行うのか。</p> <p>(3) しおサポを市民に周知・理解していただくため、減塩をテーマとした「講演会」や「減塩レシピの募集」を実施し、市民の理解を深める考えはないか。</p> | | 市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長 |